（昭和59年11月5日 第三種郵便物認可）

大震災の早期復興

住民の生命を守る
自治体の責務を痛感

兵庫自治労連委員長
畦布 和隆さん

30分以内に救援体制をつくれ

私が市役所に着いたのは一月十七日の午前八時五〇分頃でした。家中の家具が倒れて、ガラスが割れて身動きがとれない、着替えもできない、という状態の中で、まずガラスの破片を取り除いて歩ける場所をつくり、やっと市役所に着いてみると、足の踏み場もない状況でした。

私は西宮市役所の三階で働いていますが、三十数人の職員の内、私のほかには伊丹から自転車でかけつけた局長ともう一人、計三名しかいなかった。地震発生から三時間経っても、一割以下の職員しか登庁できない。これは大変な問題です。

少なくとも三〇分以内には救援体制がつくれないといけない。私が強調したいのは、まず市役所周辺に防災要員を確保する、そのための住居を確保すること、これが自治体としては第一番目の任務ではないかと思っています。

それから、人命救助の問題です。西宮市の地域防災計画の中にある「救助器具一覧表」というのを見てびっくりしているわけですが、水害や台風に関するものがほとんどで、地震で使えそうな器具はほとんどありません。これではガレキの中に埋まっている人を助け出せない。みすみす火に巻かれるのを見殺しにせざるをえなかった。人命救助が第一でありますから、そのための体制と装備に、政府と自治体は万全を期すべきです。

次に、食糧供給です。交通機関が寸断をされて、しかも市内のどこからも調達ができないという状態のなかですから大変です。さらに、震災直後であれば、「食べれるもの」を送れば、オニギリでもパンでもよかったのですが、いまもう五〇日も経っています。一日三食メニューを変えて、栄養のある温かいもの、こういう要求が強くなっています。これは、口でいうのは簡単ですが、実際に何万食という温かいものを供給するのは大変なことです。一日分の食糧費八五〇円がやっと一二〇〇円に引き上げられましたが、遅すぎると思います。

「救援のあり方」についても、ぜひ考えていく必要があると思っています。一月一七日の地震当日に夕方からオニギリが救援物資として届きました。その時のうれしさといえば、感動で涙が出るぐらいありがたいことでした。それからが大変です。来るは来るは次々に。これを三分の一近い職員で、積み卸しをして、仕分けをして、そして搬送しないといけない。十七日の朝から飲まず食わずで働いていて、夜通しでやるわけです。それが二日三日と続くわけですから、もう疲労困憊の状態です。

それから人間の問題です。数千人の人たちが非常時の混乱の中でかけつけていただきました。これを指揮する肝心の職員の配置ができない。物と人の救援のあり方については、計画的に系統的にやる体制がどうしても必要だと痛感しております。

仮設住宅を最優先で

避難所の問題は、いま学校とか教育施設がほとんどです。神戸市役所も芦屋市役所も西宮市役所も、それ自体が避難所になっています。しかも芦屋の市役所では、職員のすぐ脇まで避難の方がいて本来業務ができないという問題があります。その点でもうひとつ申し上げたいのですが、義援金、援護金の問題です。実際にその仕事に忙殺されている中で、あるケースワーカーが八十三世帯を担当していたらしいのですが、そのうちの七十六世帯が全壊し、その世帯の中で八名が亡くなっている。ところが義援金や援護金の支払い事務に忙殺されて、ケアができないという問題があります。これは深刻な問題です。戦争とか震災になると、弱者が切り捨てられるといいますが、実際に現場ではこういった事態になっています。

避難所の問題はプライバシーなどいろいろあります。避難所の生活も衣食での改善はできるわけですが、住については仮設住宅の建設なくしては実現できない。私は何よりもいま最優先すべきは、仮設住宅の建設であると思います。

それから自治体の労働組合ですから、労働組合がこの間、非常に奮闘したということも申し上げたい。そして労働組合の中で鍛えられた職員というのが、やはり献身的にまず一番にかけつけて、レスキュー隊と一緒にドアを焼き切って人命救助にかけつけた。私はやっぱり労働組合というものが、日頃から住民のいのちと暮らしを守るという立場にたってどれだけ運動しているか、いまの震災のなかで試されていると思っています。

主張

地方政治革新の先頭に

国民生活を左右する一斉地方選挙は、二十三日告示の知事選をトップに火ぶたが切られます。今回の地方選挙は、住民犠牲、大企業・ゼネコン奉仕の地方政治から、住民のいのちと暮らし、福祉を最優先する地方政治に転換し、地方自治を住民の手にとりかえす重要な選挙です。その結果は直接国政にも大きな影響をおよぼし、国政革新の確かな土台を築くことにつながります。

阪神大震災の大惨事は、歴代内閣による国民無視の政治＝臨調行革路線による人災であり、いまその政治の責任と自治体の役割が厳しく問われています。住民抑圧・大企業奉仕の自治体行政の推進は、今日では大規模開発の破綻、自治体財政の破綻、ゼネコン癒着行政による汚職・腐敗、オール与党化・翼賛体制による議会制民主主義の喪失と破綻などを招き、「住民のいのちと暮しを守る砦」としての地方自治体の性格をも蹂躙しています。こうした事態は、自治体労働者の権利侵害と一体で進行しています。一斉地方選挙では、それを推進してきた首長や政党に明確な審判を下さなければなりません。いま政治が問われていることは、政治の改革です。地方政治の改革とは、憲法に明記されたすべての住民の基本的人権を保障し、平和で健康で文化的な生活を保障する自治体にすることです。地方自治法は（第二条）「住民の安全、健康、福祉を保持すること」を自治体の責務としています。

地方政治の革新は、住民と自治体労働者の要求前進の道であると同時に「住民が自治体の主人公」となるたたかいです。そうした民主的自治体建設を進める上での最大のたたかいは、住民要求にしっかりたった革新統一の首長と革新政党の議員の進出です。政治革新のチャンスを生かせるか否かは自治体労働者と労働組合が運動の先頭にたって住民の中に入って奮闘するかどうかにかかっています。

国家的規模の地方自治の反動的再編や「自治体リストラ」攻撃は、自治体の反動化と一体です。自治体労働者と住民の要求は基本で一致しています。自治体の行財政に精通している自治体労働者が政治革新で力を出すことで、住民は問題を理解して支持してくれます。自治体労働者は政治革新の先頭にたとう。

きょうさい 知っ得情報 ＝5＝

安心できます 交通災害共済の加入

春は人事異動や新入職・入学など、新しい出発（たびだち）の季節ですね。交通事故も多いシーズンです。

「もしも」の時に備えて、あなたも交通災害共済に加入しませんか？自治労連共済の交通災害共済は、いわゆる「交通事故」だけではなく、次のようなときにも対象になります。

駅のホームで人に押されて転び、ケガをし、五日間通院して治療を受けた

駅構内の乗客のための通路やホームでの不慮の事故は対象となります。この場合、公的証明書が必要ですので、駅長または助役等の証明書をもらってください。

道路を通行中、突然、ビルの看板が落ちてきてケガをし、十日間入院しました。

道路通行中に建造物や工作物が倒れたり、それらからの落下物で不慮の事故にあった場合は対象になります。

ただし、その道路や建物等の管理者等の証明書が必要です。

自転車で通行中、よろけて転倒し、三日間通院し治療を受けました。

自転車の自損事故も対象になります。所轄の警察署に事故の届け出をし、「交通事故証明書」をもらってください。

川上敏子（滋賀県職）
「世界の街角」「ザ☆仲間」の記事楽しく読んでいます。いつの日か自分の夢もかなえたいと……。

福富夏江（京都・宇治市職労）
大震災の被害の陰にかくれて地方自治体の首長の献金問題、信用組合の乱脈融資問題、そして公共料金値上げ等、普段なら大きなニュースになるべきニュースが小さくしか取りあげられていません。被災地の方々が一日も早く安心して生活が再開できるためにも巨悪に目を向け、税金が正しく使われるよう監視の目を厳しくしたいものだと思います。

村田勇（大阪市労組）
大阪自治労連二・二四総決起集会は小林つとむさんを何としても知事にしようと盛り上がりました。府下各自治体のユニークな一分間パフォーマンスは、会場のあちこちから共感と笑いの渦がまきおこりました。この仲間の力を集めたら、府民不在のなれあい政府を打倒できると確信しました。

高山寿美子（兵庫・西宮市職労）
思いがけない震災にあいましたが、めげずに復興をめざして頑張っています。全国からの御支援ありがたく思います。今後ともよろしく御願い申し上げます。

安達子（岡山市職労）
公民館に勤務する〝常勤的〟非常勤職員です。「自治体の仲間」二〇〇号の大阪府文化財保護非常勤職員労働組合の記事に感激しました。七名しかいないのによくヤル！

飯田逸子（山口・下松市職労）
神戸の人たちへの支援に取り組む若い人たちの行動力に感動します。早く立ち直ってほしいと願わずにはおられません。

平川のぞ美（神奈川・三浦市職労）
新しい風が吹く頃、政治も新しくなります。新しい仲間とともに、我々も頑張りましょう。

水竹文子（佐賀・唐津市労連）
四月に行われる市長選の取り組みで市内はいろいろな動きでもう大変です。